

(別紙4(2))  
**目標達成計画**

事業所名 : グループホーム錦ヶ丘

作成日 : 平成25年3月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題   | 目標  | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容   | 目標達成に要する期間 |
|------|------|--|---|--|------------|
| 1    | 1    | 理念の共有と実践<br>理念具現化した年、月目標などを定め更に理念に沿ったケアの実践に繋げる。  | 理念を理解し利用者が地域の住人になれる様支援する。                     | 地域の方に月に1回のホーム内ボランティア行事への声掛け、民生委員さんを通じてのお話ボランティアを依頼し、入居者との交流を図れるように支援していく。  | 12ヶ月       |
| 2    | 20   | 馴染みの人や場との関係持続の支援<br>馴染みの人や場所ととみに、その方のこだわりや習慣等を把握し支援することで、更に入居者の毎日に変化が出るよう支援する。         | 個々の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援の継続。                 | 本人や家族との会話のなかで馴染みの人や場所を聞き、手紙を出したり、回想法を用い昔を思い出して頂ける様支援していく。例えば、外出行事を計画し馴染みの場所を尋ねる。   | 12ヶ月       |
| 3    | 6    | 身体拘束をしないケアの実践<br>施設や対象となる拘束に限らず、普段行っているケアが職員の思い込みや制限になっていないかなど、ホーム独自の研修会を行い、質の向上に繋げる。  | 拘束の無いケアの向上。                                   | ホーム内で、身体拘束の勉強会を開き身体拘束の理解を共有する。   | 6ヶ月        |
| 4    | 40   | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が入居者にとって楽しみな時間となるよう会話や職への興味を引き出すよう工夫したり、職員が検食を摂ることで味や量、硬さ等の評価に繋がる。 | 入居者が食事の時間を楽しめるよう支援する。                         | 季節の花をテーブルに飾ったり、手作りの箸置きを使用したりし目でも楽しめるような工夫をする。  | 6ヶ月        |
| 5    | 4    | 運営推進会議を活かした取り組み<br>職場体験で交流のある学校関係者やテーマに沿って参加者を依頼し新たな会議への取り組みを行う。                       | 運営推進委員会に学校関係者、他の地域の方にも参加していただき入居者の地域行事参加を増やす。 | ①職場体験(ナイストライ)後も担当の先生と密に連携し入居者の学校行事(運動会、文化祭)の参加や施設行事(夏祭り、敬老会)へ生徒さんに参加して頂き交流を深めていく。<br>②自治会、消防団、老人会、民生委員の方々へ運営推進委員会へ参加して頂き地域密着型施設としての運営を推進して頂ける場として取り組んでいけるよう支援していく。 | 12ヶ月       |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。